

## 平成 27 年度第 2 回仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議議事録

1. **開催日時** 平成 28 年 2 月 9 日 (火) 19 時～

2. **開催場所** 仙台市役所本庁舎 2 階 第 4 委員会室

3. **出席委員** (敬称略) 11 名

飯島秀弥、賀来満夫、草刈千賀志、小林好美、佐々木淳、鈴木直子、高橋将喜、永井幸夫、西村秀一、八田益充、三木祐

### 講師

遠藤史郎、具 芳明、吉田 眞紀子

4. **出席職員**

佐々木洋 (健康福祉局長)、岡崎宇紹 (健康福祉局次長)、下川寛子 (仙台市保健所長)、大金由夫 (衛生研究所長)、岩城利宏 (健康福祉局保健衛生部長)、沼田和之 (健康安全課長)、勝見正道 (微生物課長)、田脇正一 (危機管理課長)、若生明智 (危機対策調整担当課長)、鈴木花津 (健康安全課感染症対策係長)

5. **内容**

1) **開会**

2) **挨拶**

### ・会長

東北大の賀来でございます。今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今回は第 2 回のメディカル・ネットワーク会議です。ご存知のように県内もインフルエンザの患者さんが急増してきました。また新型ノロウイルスの感染症も報告されるようになってきました。一方、世界的にはエボラ感染症は落ち着いてきたが、MERS の感染症は中東ではまだアウトブレイクが続いている。韓国では収まったが今後どうなるか予断を許さない状況です。WHO がジカウイルス感染症について緊急宣言を出したということで、国内でも 4 類感染症・検疫感染症に指定された。感染症をめぐる問題もまだまだ山積している。本日も 3 名の先生方から MERS・ジカウイルス感染症・感染症疫学情報の共有化の重要性について話があります。このメディカル・ネットワーク会議は、仙台市医師会や仙台市の関係者の多くの方々の協力によってなっている会議で、日本の中でもこういった行政が行っている会議では、非常に特出すべき会議と思っています。この後新しい情報の説明があるが、委員の方々も情報交換していただければと思います。よろしくお願いします。

### ・講師紹介

### 3) 議題

- ・ 議事録署名人の指名

小林好美委員を指名 (了承)

- ・ 協議

以下のとおり

発言者	議 事
会長	議題(1)感染症の最近の話題について 東北大学病院の感染管理室副室長の遠藤先生から、MERSアウトブレイク終息後の韓国視察についてお話しいただく。私たちの教室でMERS研究班の班員になっており、昨年私と遠藤と吉田の3名で研究班のメンバーと一緒に韓国のサムソン・ソウル大学病院・韓国のCDCを訪問した。現場に行かないとわからなかったことが、多くわかってきたので遠藤講師からどんな病院を巡って、どんなことが問題だったか。まだ研究班でも報告しておらず、このような形での報告は初めてと思う。遠藤講師から報告をお願いします。
遠藤講師	資料1「MERSアウトブレイク終息後の韓国視察」に沿って説明
会長	ありがとうございました。韓国の三病院に出向いて視察をしてきた今の状況である。質問・意見があれば伺いたい。
委員	サムソン病院で一般の方と医療関係者でかかった率が異なる原因は何か？
遠藤講師	そこまで聞けなかった。推測になるが、マスクひとつにしても一般はほとんどマスクを着けず無防備。医療従事者が必ずマスクを着けていたか確認できなかったが、少なくとも咳エチケットの知識は医療従事者の方があるのでおそらく着けていたのだろう。
委員	マスクは効果がある？
会長	接触する頻度・時間は家族が濃厚に接触すること多い。N95を着けなくてもサージカルは着けていた可能性があるので、そこも要因になったかもしれない。
西村委員	スタッフの暴露による就業制限でスタッフが足りなくなったという話だが、どういう暴露による就業制限とは定義か？患者と会ったら次の日から制限がかかる等、症状の有無という縛りがあるのか。
会長	定義については確認できていないが、今後メールなどで確認できるかもしれない。サムソンでは、たぶん、患者に接したというのがひとつの制限という言い方をしていた。具体的にどれくらいの時間接したとか細かいところは聞けていない。
西村委員	接して何日など。接触した次の日は大丈夫と考える。

会長	<p>大事な指摘なので、研究班でも就業制限をかける定義を確認させていただく。実際に行ってみないとわからないことがあり、情報が不足していたことが大きく、まさか韓国に入っていないだろうという意識があったようだ。スーパースプレッターも色々議論があり、元気があり遠くまで咳を飛ばせる人の方がスーパースプレッターになりやすいと印象を話していた。三病院ともそのように言っていた。</p> <p>次に・ジカウイルス感染症について 具講師から説明する。</p>
具講師	資料2「ジカウイルス感染症」に沿って説明
会長	<p>話題になっているジカウイルス感染症について総括していただいた。質問・意見はあるか。</p>
西村委員	<p>個人的な感想としては、なぜ今まで東南アジアで広まらず、ここで広がったか。(東南アジアでは)小頭症も出てこない。小頭症に関しては世の中騒ぎ過ぎ、怖がり過ぎているところがある。Nature の2月4日号に載っていたものを持ってきた。Nature では何が書いてあるかという、小頭症と感染症のつながりはよくわかっていない、ジカウイルス感染症と小頭症の関連と発生頻度についてはっきりさせると、またブラジルの報告数は大げさだと。ジカウイルスを媒介する蚊はネッタイシマカとヒトスジシマカといわれているが、確率からいうとヒトスジシマカは lesser extent だろうと。両方で媒介するように言われているがちょっと違うだろう。ネッタイシマカがメジャーだろう。多くは症状がなく逆に大変である。小頭症についてよく調べるように。診断のためのクライテリアが非常に曖昧で広いために多くの、偽陽性が出ているはずである。本当の規模は今までの報告ではわからない。1月現在までに4,100例の疑い例があり、小頭症の診断基準に一致したものは270例、却下されてたのが462例。増加はあるが言うほどの増加ではないだろうが非常に高く信じられない。このくらいクライテリアは非常に不確定、実際にブラジル政府が行っているのは32センチ以下を全部報告としている。未熟児も入ってしまう。ある時期から徹底にこのクライテリアで調べるようになったので、それなりのバイアスがかかってきて、これまで報告されなかったものも報告され、何十倍にもなるだろ。結論は確かに増えているだろう、どのくらいかはっきりさせるべきと。みんなが小頭症になるイメージは避けたほうがいいと思う。</p>
会長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。Nature の論文も含めお話しいただいた。アジアで流行った場合、デング熱との鑑別を含めどれくらいがジカか。ブラジルで大流行しているが以前にはなかったのか、</p>

	以前はデングの中に紛れていなかったか。冷静な判断が必要になってくる。4類感染症・検疫感染症になり、より詳細な検討が加えられると思う。WHOも緊急宣言し話題になったが、5月以降蚊が出てくる中でデングの鑑別も含め色々なことを考えていかななくてはならないと思っている。
高橋委員	感染経路はヒト→蚊→ヒトに戻るか？
具講師	一般的に発症している人を蚊が刺し、次の人を刺して広がる。
高橋委員	垂直感染やヒト→ヒト感染もあるということか。
具講師	性行為や血中にウイルスがあれば輸血も考えられる。だが蚊の媒介が一番大きな問題。西村委員のコメントに加えさせていただくと、先日ランセットか何かに載っていたことで、ブラジルが小頭症のスクリーニングを変えている。32センチがその前は31センチでしていた時期がある。増えたのでサーベイランスが拡大している。急に話題沸騰したのでこれもこれももととなっている。そもそもサーベイランスがきちんとできているかに関しては、注意深く見なくてははいけない。
西村委員	小頭症の定義は脳の発達障害で頭の大きさではない。大きさ、何センチでとったら色々入ってくる。
委員	感染して治る確率は？
具講師	一時的に熱が出て皮疹も出るが自然に治る。
委員	妊婦が一番気を付けるべきか？
具講師	小頭症の関連がわかっていないので気を付ける、そのような理解でよいと思う。
副会長	日本に入ってくる可能性とルート、流行する可能性はあるか？
具講師	入ってくる可能性はあると思う。デングに関しては東南アジアで広く流行していて、行く方はブラジルより圧倒的に多いので、比べるとチャンスは少なくなる。デングよりは(侵入リスクは)低いと思う。今年オリンピックがあり人の行き来が多く、その中で入る混む可能性はありうる。日本に帰ってきて流行するかは別の問題。一昨年のデングのように公園で刺されてというようなことがあると、ヒト→ヒト伝播の可能性はある。蚊に刺されないのが重要。
西村委員	これからのアメリカの動向を見ていれば大丈夫。メキシコまでできてそこがネッタイシマカの北限で、アメリカは基本的に広まらなければ、ヒトスジシマカで伝播するとなると北米まで伝播するはずなので、アメリカを見ていて広がらなければ、日本ではあまり広がらないだろう。
具講師	ヒトスジシマカはネッタイシマカより感染効率が低いだろうとい

	うのが一般的な感覚で、見極めながら判断する。
三木委員	渡航者への教育に関し海外渡航外来を行っており、ブラジルは黄熱の義務ではないが、その他の地域は黄熱をするのが義務になっている。先週からパンフレットを用意して旅行者に伝えていく。
会長	<p>正しい情報を渡航する方に伝える事は大切なこと。不顕性感染が多くかかっているかもしれないが、実際にはかかっているかわからないため、正確なサーベイランスができにくい。難しい感染症ではあるが、正しい情報を医療センターも含め市民の方々に公開講座もしていきたいと思っている。</p> <p>次に感染症疫学情報の共有について 国立感染研究所の実地疫学コースを修了した3名がいる。感染研がSARSの時、色々な情報が入り乱れ情報がなかなか手に入らなかった。以来、WHOは疫学情報を非常に重要視し情報を共有化しよう、わかっていることをメディア情報も含めできるだけ疫学情報を集め共有するシステムをつくっている。吉田先生から紹介していただくのは、いま大学の中で行っている一部、今後仙台全体で行っていきたいと考えていること。吉田先生お願いします。</p>
吉田講師	資料3「感染症疫学情報の共有」に沿って説明
会長	<p>ありがとうございました。情報がいかに重要か3名の先生の話でもわかる。パンデミックの時情報を共有でき、その中から仙台方式ができたことを考えると、ありとあらゆる情報がありどのように整理するかが重要と思っている。今の発表について何かご意見はあるか。次の話題のネットワークをつくる時に、情報をお互いに 環境をつくるのが重要になってくる。薬剤師会からもお集まりいただいており職種を超えて集まっている委員の皆さんが、情報を共有していくことが重要なポイント。今後もネットワーク会議が中心となって情報の共有を図っていきたい。</p> <p>(2)新型インフルエンザ等対策等について 新型フルエンザ対策の現状について 事務局から説明をお願いします。</p>
事務局(沼田課長)	資料4「新型インフルエンザ対策の現状」に沿って説明
会長	ありがとうございました。抗インフルエンザの備蓄、予防接種について説明があった。何かご意見・ご質問はあるか。
西村委員	仙台市独自の備蓄の算定根拠はなんですか？人数×日数と思うがその予防投与の日数の想定はどのようにしているか？
事務局	確認する。
会長	医療従事者が何名で予防投薬の期間、一度休んで再度投薬をするか

	<p>など算定をどのように行ったのか。今わからなければ、後で委員全員にメールで答えていただきたい。西村先生は予防投薬に意見はあるか。</p>
西村委員	<p>予防投与は非常に難しい、当院でも予防投与してもうまくいかないことがある。やめてかかることも結構ある。</p>
会長	<p>パンデミックの時も、流行時期が年か月間というなかでずっと飲み続けるかどうか議論があった。今の意見も踏まえこのような設定で行っているとの回答を。先生方の意見で備蓄量などの意見も含め議論をしていきたので、今の算定条件を教えてください。</p> <p>・仙台市における感染症に係る病院ネットワークの構築について 事務局から説明願います。</p>
事務局(沼田課長)	<p>資料5「仙台市における感染症に係る病院ネットワークの構築について」に沿って説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。現在ジカウイルス感染症も含め、色々な感染症が話題になっている。エボラ・デング・MERSなど、地域の中で地域連携加算を超える形で、仙台市のホスピタルネットワーク、infection control hospital network と言っているのかもしれないが、医師会を含めてのネットワークを構築していくことでいかがかとご提案いただいている。活動イメージの具体的な案があり、各病院で感染症診療・対策に携わっている方のメーリングリストを作成し、吉田が示した疫学情報をできるだけ共有していただく。薬剤師会・看護協会など含め今後議論をするが、最新の疫学情報を共有化していくこと。仙台市から行政からの情報もできるだけメールで共有化を行っていく。二点目は定期的に年1～2回会議を開催し、疫学情報・感染症の最新情報を含めたものを共有する。また顔が見える関係をつくっていく。海外で突発的にいろんな感染症が起こってきた時に、再来年に1種感染症病床が宮城県の協力によって東北大学に完成するが、その活用をどのように行っていくかと連絡体制。パンデミックの大混乱を考えるとホスピタリティーネットワークが重要になってくると思う。一つの案だご提案いただいた。こういったものを構築していくのはいかがか、ご意見をいただきたい。</p>
高橋委員	<p>薬局は仙台に500位ある。一般の予防についての方法を書いたパンフレットを配る、またその場で質問に答えることや医療機関にフィードバックするといった活用はできると思う。一般向けに何かあった場合は利用していただくとよい。</p>
会長	<p>仙台市の薬局を含めた方々の情報提供や病院ネットワークについて</p>

	<p>て、委員の皆さんご賛同いただけるか。以前から宮城県感染コントロール研究会が立ち上がっているが、いま、J感染制御ネットワークフォーラムというのを年一回やっています。実はその前は仙台市で委員の西村先生、飯島先生、三木先生含めていろんな病院の先生にあるまわっていただいて、例えばバイオテロの場合にはPPE着脱のしかた、あるいは医師会の先生も含めてSARSの勉強会などやっていたことが有るのですが、宮城県や宮城県以外の東北の方への情報提供というのもあって、今後は仙台市の中での強固なネットワークが必要と感じている。今回ご提案いただいて、再構築というか、重要性があると思っている。お集まりの先生、中核的な病院、仙台市そして各専門職の先生薬剤師会、看護協会、歯科医師会の先生も含めて、情報を共有できるネットワークの形でいかがか？</p>
西村委員	<p>情報共有だけでなく、やはりパンデミック、新型等が起こった時、それぞれの医療機関の役割分担を目指すか、最終的にそういったもの目指してやっていけたらよい。</p>
会長	<p>パンデミックで対応が難しかったのは、医師会の先生方は一番先に診られるが重症化した人をどこに搬送させるか、その病院が重症化した患者を診た時に、他の病院が婦人科領域や、救急領域の診療をどう担保できるのか。西村先生が言った各病院の役割分担が非常に難しかった記憶がある。新たな感染症が出てきた時に情報の共有化と具体的なアクションプランをどう行っていくのか、どう役割分担を行うか議論していきたいと思っている。名称は今後検討いたしますが、このような方向で、細やかなネットワークをつくっていく、情報を共有化する。一段階として疫学情報を多くの方に見てもらう機会を始め、定期的に会議を開催し対応していくこととする。その際には薬剤師会、看護協会、歯科医師会の先生も含めて幅広く来ていただき対応していきたい。</p> <p>(3) 感染症法の改正について・インフルエンザ病原体サーベイランスの強化について 事務局から報告・説明をお願いします。</p>
事務局(沼田課長)	<p>資料6「インフルエンザ病原体サーベイランスの強化について」に沿って説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。何かご質問はあるか。</p> <p>(4) その他、この場で議論したいことはあるか。</p>
飯島委員	<p>インフルエンザが流行った時の対応で、予防投薬がなぜ有効かどうかという人に有効かということと一緒に教育しておかないと、医療従事者でも間違った知識がある。備蓄してもきちんとしても、使い方をきち</p>

	んとしなければ混乱する。ネットワークないし情報共有の中で繰り返し教育していく必要がある。
会長	ネットワークの中で色々な議論の中で、抗微生物薬の適正使用を目指す。今回伊勢志摩サミットで、感染症対策を重視している。薬剤耐性菌対策も厚労省でアクションプランを検討している。今の先生のお話も含め、フェーステューフェースで議論できるような議題を入れネットワークの中で討議したいと思っている。共同で勉強会やホスピタルネットワークとしての講演会も細やかに行っていければと思っている。
佐々木委員	備蓄の話で、今回の通知を受けて、県もタミフル・リレンザの目標備蓄は達成している。タミフルドライシロップやラピアクタ・イナビルを整備していく。28年度からはタミフルドライシロップとラピアクタの備蓄を始めたいと思っている。29年度以降はイナビルの備蓄の計画もする。
会長	県から備蓄の情報提供いただいた。他にないか。以上で終了する。

平成 28年 5月 13日

議事録署名 小林好美 印



## 【出席者】

委員	飯島 秀弥	公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院 呼吸器内科 主任部長
委員	賀来 満夫	東北大学病院医学系研究科 感染制御・検査診断学分野教授
委員	草刈 千賀志	一般社団法人 仙台市医師会 理事
委員	小林 好美	仙台市八木山小学校 校長
委員	佐々木 淳	宮城県 保健福祉部技官兼次長(技術担当)
委員	鈴木 直子	一般社団法人 仙台市歯科医師会 副会長
委員	高橋 将喜	一般社団法人 仙台市薬剤師会 副会長
委員	永井 幸夫	一般社団法人 仙台市医師会 会長
委員	西村 秀一	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 臨床研究部 ウイルス疾患研究室長
委員	八田 益充	仙台市立病院 診療部 感染症内科 医長 感染症対策室 室長
委員	三木 祐	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 呼吸器内科部長 感染対策室長
講師	遠藤 史郎	東北大学病院 感染管理室 副室長
講師	具 芳明	東北大学病院 総合感染症科 講師
講師	吉田 眞紀子	東北大学病院 検査部 助教

## (事務局)

佐々木 洋	仙台市健康福祉局長
岡崎 宇紹	仙台市健康福祉局次長
下川 寛子	仙台市保健所長
大金 由夫	仙台市健康福祉局衛生研究所長
岩城 利宏	仙台市健康福祉局保健衛生部長
沼田 和之	仙台市健康福祉局保健所健康安全課長
勝見 正道	仙台市健康福祉局衛生研究所微生物課長
田脇 正一	仙台市危機管理室危機管理課長
若生 明智	仙台市危機対策調整担当課長
鈴木 花津	仙台市健康福祉局保健所健康安全課感染症対策係長